

神奈川山梨教会連合会より

かりん

インタビューシリーズ【向き合う】

第二回

鎌倉稲村ガ崎教会信徒 中村昌稔さん



○中村さんは、金光教麻布教会の信徒であるご両親（父は信徒総代）の元、昭和三十三年十二月二十二日に生まれました。東海大学を卒業後、一般企業へ就職。薄膜製造装置の自動制御システム・生産技術エンジニアの仕事に従事し、後に半導体製造装置エンジニアリングの仕事に就きました。現在は定年し、東京ガスの社員食堂に勤務しています。

二人のお子さんは既に独立され、現在は奥様と二人暮らし。典樂の御用をしていた父は、鶴見教会（現・鎌倉稲村ガ崎教会）

が宿泊練習会場だったご縁で参拝するようになり、信徒になりました。数年後に中村さんもご両親と共に参拝をするようになりました。

○子どもの頃から両親と共に教会に参拝されていたそうですが、反発心などありませんでしたか。

中村さん（以下、中）…中学生になると、お参りに行くのが嫌になり、足が遠のいていきました。進級、進学などの節目にお参りをする程度でした。

○そんな中、また教会に参拝されるようになったのですね、

中…子育てをするようになり、「子供が、ケガや病気を乗り越えて無事に成長していく事は奇跡のようだ。」と、大きな力に守られていると思う、子供をつれて母について教会へ足を運ぶようになりました。

○そんな中、今回「神奈川山梨布教130年記念誌 喜びを未来に」の編集の御用を受けられましたね。百ページにもなる冊子の編集は、大変だったのでは。

中…はい、大変でした。丸子教会の横山先生に誘われ、作業内容は神奈川山梨活動年表と教会紹介位だったので、参加させていただきました。その後、記事の量がどんどんと増え、すごいボリュームになりました。

プログラミングや計算、取扱説明書作成等でパソコンを使っていました、文章本

の編集は未経験でした。デザイン・文体・レイアウト…、手を付けるすべてを見直して取り組みました。

○記事作成作業でも、取扱説明書と冊子の編集では、フォーマットが違いますよね。

中…また、冊子作成を始めた時期から、コロナ対策の規制が緩んで食堂の仕事が忙しくなり、週末以外の作業が難しくなっていました。以前より集中力の持続が短く、随分と苦戦しました。

○立派な記念誌が出来た背景には、こんな苦労があったのです。本当にありがとうございます。

中…作業を通して、苦勞されて布教した先覚の先生方、福田助次郎先生、支えてこられた周りの方々の歴史を知ることが出来ました。激動の明治時代の大変な中、布教を進めてくださって、私たちが教会に参拝ができる、今を「ありがたい」と感じています。

○ありがとうございます。



**第一回 神奈川山梨教会連合会グラウンド
ゴルフ大会 最初の栄冠は誰の手に**

藤沢教会 高橋義吉

令和五年九月十七日（日）に神奈川教会の向かいにある神奈川公園にて神奈川山梨教会連合会信徒部主催の第一回グラウンドゴルフ大会を実施しました。

参加者は八十一歳から八歳まで老若男女二十三名が集いました。

ゴルフコースは一番、二番、五番が距離二十m、三番、四番、七番、八番が距離十五m、六番はホールインワン狙いの距離五m全てパー3で設営しました。

一般的に競技は4ラウンド回りますが、初めての方が多数だったので3ラウンドで行いました。



今回の最年長参加者です！

時折木陰から日が差す中、草あり、枝あり、デコボコありの難コースに皆さん苦戦しながらも、思い思いにゲームを楽しんでいました。

結果発表

優勝 横浜西教会 箕田 朋歩さん
スコア74 四番でホールインワン

準優勝 藤沢教会 高橋 良治さん
スコア78 六番でホールインワン

三位 藤沢教会 高橋 義吉さん
スコア84 六番でホールインワン

おめでとうございます！

四位の子安教会の村田先生は三位と同スコアでしたが、敬老精神に従いまして四位となりました。村田先生も七番でホールインワンを達成していて、ホールインワンが成績上位の分かれ目のように思われます。ホールインワンは他にジュニアながら高橋慧太君（十歳）が七番ホールで達成しました。

優勝した箕田朋歩さんはスタートした最初の一打でホールインワンを達成してぶっちぎりの優勝を果たしました。グラウンドゴルフのご感想を伺ったところ、

「第一打がホールインワンでビギナーズラックが本当にあるのを実感しました。とても楽しかったので来年もよろしくお願ひします。」とのことでした。

高齢者の健康寿命を延ばすのに手ごころなグラウンドゴルフは、身近な自治会で普及してきています。人生百年時代を楽しみながらグラウンドゴルフで仲間を作り大会で「アレ（栄冠）」を目指しましょう。

表彰式会場は神奈川教会をお借りし、参加者も多数いただきました。参加者は皆が笑顔で帰りました。



神奈川教会で集合写真、みなさんいい笑顔です

教祖百四十年「教師信徒研修会」

を開催（その二）

・付加価値

信仰の醍醐味は、信心による付加価値ではないかと思う。三十年前の甘木教会での修行時代の話であるが、あるきっかけで中学生に勉強を教えることになり、一学年十人まで、無料で教えることとなった。ある時末信奉者の中学三年生が、学校でこの塾に行っているか調査があり、その子が「金光甘木教会」と言ったら、先生も知らず、クラスの中で失笑が起きて、恥ずかしい思いをしたということ、「なぜ金光教は有名ではないのか」ということを言ってきた。

私は「金光教を知った人、良さを分かちた人が有名にするしかないだろう。君達は教会で心の勉強もしているんだ。その分努力しているんだから、上に立つ資格があるんだ」と話して、勉強に取り掛かったことがあった。心の勉強という付加価値がある。必ず勉強の前に信奉者、未信奉者に関係なくご祈念して、数分話をしてから勉強に取り掛かるといふことで、ご祈念すれば学習の中味も変わってくると、それも付加価値である。「勉強も自分がするのではなく、神様にさせて頂く気持ちでやってみろ」と。教会の場を通して、経験させることで信心を少しでも分かっただけでももらえれば、との思い

で話をさせてもらった。

・生神の道

教祖百四十年というお年柄を迎えて、教祖様の生き様というか、教祖様の信心のあり様、そこを振り返るといふ意味で、最後に「生神の道」ということで話をする。私は長年ボランティアに関わっている。人から手を合わせてもらえると励みになる。

教祖様が歩んで来られた道は、どういう道であったのか。「信心して神になることを金光大神が教えてやる」とのご理解のままに、正に神になる道を教えて下さった。それは人を助けること、神の道を伝え広げること、神の道を伝えて下さった。それを教祖様が生涯をかけて求められてきたのではないか、それが生神の道を辿るといふ私達のあり様ではなからうかと思う。共々に元気な心、体、おかげを頂いて、しっかりとこれからの信心の上におかげを蒙らせて頂きたいと願って、今日のお話を終わらせて頂く。

講話の後10分休憩して、質疑応答を行った。

続いて意見発表に入り、3名（教師1名・信徒2名）から思うところを発表してもらった。

今村則子さん（生麦教会）は、「ここからの信心」について、最近思わせられたことを話された。今年6月ご本部で教団独立記念祭が仕えられ、教祖百四十年「神人物語」

を編む全教集会で、学院同期で仲良くしていた池本ひろ江先生が実践発表され、その話の中で「今までに起きてきた善悪全てのことをひっくり返して、今の自分がある。その自分を好きになることで神様に愛され、生かされている」と話されたことから気がかされ、まず自分が自分のことを好きになつて、そういう中で生かされてきたこと、いろいろあつたけど、今の自分があることを感謝して、そのことを伝えていければいいのではと思う、と語った。



今村則子さん



原田秀彦さん

原田秀彦さん（横浜西教会）は、「これからの信心」について考えているところを話された。悩みがあれば相談できる人、どんな話でもニコニコして聞いてくれる人、話をしたらいつでも気持ちよくなる人、何でも相談されて頼られる人、そんな人に仕事でも、私生活でもなりたいと思っている。

あこがれであり、私の側にもそういう方がいる。自分自身が将来人に信用され、頼りにされる人になることで、「あの人は金光教を信心しているからだ」と言われるような人になりたい、と語った。

伊藤かおるさん（鎌倉稲村ガ崎教会）は、昨年のご霊地集会の司会を受けた時の自分の気持ちの移り変わりを話された。昨年山田先生から司会の御用の依頼があり、一度断ったが、台本があるなら御用できると思い司会をお受けした。練習すれば何とかなると思っていたが、コロナに罹り3日ほど辛かったが、その後普通の生活ができるようになった。皆さんに迷惑を掛けてはいけないとの思いから、ご本部に行く3、4日前からご神米を頂き、何とかさせて頂きたいという思いになり、無事ご本部に参拝できるおかげを頂いた。自分にとってチャレンジでもあったが、素晴らしい空間の中で、凄く幸せな気持ちで司会の御用ができる経験を見せて頂いた、と語った。



伊藤かおるさん

その後閉会行事に移り、連合会副会長信徒部長山口和賀雄さんは、閉会挨拶で「今日の嶋田先生、皆さんのお話を聞きながら、私の信心は信心しているつもり、にわか信心である。信徒部長の御用も仕事になっていて、御用になっていない。だから身につかない、徳が積めない、徳を積んで神様に少しでも近づけるよう、人を助けて神になる信心となるよう、思い知らされた」と語った。閉会のご祈念をして午後4時終了した。

（報告 南清孝）

神奈川山梨布教130年記念誌

「喜びを未来に」 追加修正報告

追加…連合会年表
 ・82ページ…昭和41年8月5日 葺崎教会（山梨2）甲府教会に合併し解散
 ・93ページ…平成29（2017）年10月30日 神奈川県宗教連盟「宗教文化講座」を開催 講師…渡辺順一師（羽曳野）
 修正…1ページ写真「東京布教の先師達」
 「大家玄治師（牛込）」↓「大屋玄治師（牛込）」
 ここに追加及び訂正をさせて頂きます。お手元の記念誌へ、追加修正の程よろしくお願ひします。

あとがき

師走に入り、温暖化を忘れるような寒気が到来し、急な年末感が感じられるようになってまいりました。

あわただしい毎日に流され生活してきましたが、ふと振り返ると、今年はまた各国を巻き込む大きい戦争が始まり、昨年勃発してしまつたウクライナの戦争は未だに終わりが見えず。

目の前で行われていないので実感がわかないのですが、実際は今日も、罪のない多くの人が戦争によって殺されています。このままでよくない、と多くの人間が考えているのに、どうしてこうなってしまうのでしょうか。

最近何かと問題を起こす「宗教」ですが、宗教（本物の）のいいところは、自分の事だけでなく、その他の人の助かり、ひいては世界全体の助かりを思い、祈ることが出来る、という部分があると思います。

今こそ世界平和を真剣に祈らせていただき。年の瀬の忙しさに流されすぎず、せめてもの気持ちでご祈念させていただきたいと思ひます。

（今村則子）

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 山田信二

〒245-0017 横浜市区下飯田町926・23
 金光教横浜西教会内